

令和5年度第1回入学者選抜方法改善協議会会議録

日時 令和5年6月29日(木)
午前10時から正午まで
場所 教育委員会室

出席委員 土橋徹嘉委員、小林昭生委員、大井裕美子委員、神田貴裕委員、
松浦達也委員、田中啓委員(代理)、加藤哲也委員、秋谷美保委員、
菅崎俊幸委員、塩原克幸委員、田島慎吾委員、東泰司委員、
黒田勇輝委員、阿部弘之委員、吉野勝美委員、守屋淑美委員

- 1 開会
- 2 教育委員会挨拶
- 3 各委員自己紹介
- 4 設置要綱説明
- 5 委員長及び副委員長の選出
委員長は守屋委員、副委員長は阿部委員
- 6 委員長挨拶
- 7 協議
 - (1) 会議の公開・非公開について
公開とする。
 - (2) 会議録の署名委員
第1回は、土橋委員と加藤委員とする。
 - (3) 資料説明
事務局より
 - (4) 協議題説明
事務局より

(5) 協議内容 (○委員長 ◇委員 ▲事務局)

- 協議題について、事務局から説明してもらったが質問あるか。
- ◇ 昨年度の検討会議の委員だったので、検討事項について承知をしているが、今回、初めての委員もいるので、たたき台のようなものがあれば見せていただければ、議論がスムーズに進むと思う。
- 協議題については、資料の9ページ、10ページにあるように、検討会議で選抜の特色化、選抜方法の在り方、実施時期という形で柱はある。これが具体的にどういうことかといったことに対しては、少し分かりづらいところもある。事務局で準備はあるか。
- ▲ あくまでもたたき台として案ということの資料を配布する。
- 事務局から説明をお願いします。
- ▲ 骨子案(1) 選抜の特色化については、全員に学力検査を実施する。併せて各高校が自校のアドミッションポリシーに基づき特色選抜を実施することができるものとする。特色選抜においては特色検査を実施し、学力検査では測れない、中学生の学びに向かう力や意欲、多様な活動を多面的・多角的な観点から評価できるようにするためである。
- (2) 選抜方法の在り方については、より適切に受検生の意欲や能力等を評価できる選抜を行う。そのため、中学校調査書様式の変更し、自己PR書の提出を必要とする。中学校が作成する調査書の内容は、学習の記録のみとし、受検生の中学時代の活動や意欲等については、自らの言葉で表現する自己PR書の提出をする。
- (3) 実施時期については、新入試制度の実施時期ですが、令和9年度入試、現小学校6年生より導入としたいという案である。令和9年度入試で導入するとした場合のスケジュール案も併せて資料として配布した。
- 今、あくまでもたたき台ということで説明があった。いかがか。事務局の説明の中で、2枚目の実施時期について、現在小6の子供たちが受検を迎える時期という話だが、令和7年度の移行期間というのはどういうことか。この説明をお願いします。
- ▲ 案の中でもう一点、検討いただきたい内容がある。令和7年度のところに、移行期間とある。現中1が受ける入試における選抜基準による部活動の扱い、または調査書の様式を変更する予定である。新制度の前ではあるが、移行期間として検討したいところである。
- いかがか。協議題としては実施時期として令和9年度入試というところだが、部活動地域移行の関係から、7年度からケアする必要があるのではないかと、いうところで、協議いただきたい。何もないところでは検討しにくいという

ことで出された、たたき台であるが、いかがか。

- ◇ これまで埼玉県では全ての公立高校で、部活動をはじめ、委員会活動や資格取得まで、調査書に記載され、選抜において評価してきた。自己PR書へ自分で記載するということにはなるが、保護者の受け止めはどうなのか。意見を聞いてみたい。
- 検討会議には委員として保護者代表がいたが、そこでは大枠を検討してもらっていた。今のたたき台だと、だいぶ調査書が変わることで、保護者の意見を聞いた方がよいのではないかという意見だったと思うが、いかがか。
- ◇ それは11月予定のパブリックコメントで聞く予定ということでよいのか。
- 広く県民に聞く目的がパブリックコメントである。本協議会で方向性を決めるに当たって保護者の意見をというのが発言の趣旨と思われるので、設置要綱第5条の4で、行政関係者、教育関係者等とあり、こちらに含めると考えるということではいかがか。委員ではないので、我々の方向性を出していく中で、の参考に意見を聞くということではいかがか。
- ◇ (賛成)
- 案をまとめていく前に意見を聞き、検討の参考にする必要があるため、次回に参加いただき、意見を聞くのはいかがか。
- ◇ 委員としてではなく、参考人として意見を聞くということか。
- そうである。委員の追加ではない。たたき台について意見をいただくという位置づけである。よろしいか。
- ◇ (賛成)
- 保護者の代表ということで中学は、埼玉県PTA連合会に、高校は埼玉県高等学校PTA連合会にお願いする形で良いか。
- ◇ (賛成)
- では、この形で進めたい。委員の方々からのたたき台に対する忌憚のない意見を聞きたい。
- ◇ 自己PR書については、全受検生に提出を求めるということでよいか。この点をはっきりさせておかないと、議論ができない。事務局の回答をお願いしたい。
- ▲ 国からの通知などを踏まえて、導入する場合は全受検生に対して提出をさせると考えている。
- ◇ 自己PR書を導入しないという選択肢はあるのか。導入するのであれば、学校ごとに選択できるのか。
- ▲ 自己PR書を全受検生が出さねばならないという決まりはない。制度によっては、自己PR書を各学校で提出を求めるとか求めないかという選択になることもある。議論の余地はある。制度が決まり次第、意見をうかがう中で、全

校全受検生に提出が必要であるという意見があれば、提出させる方向に進める。

- 調査書の変更にも大きく関わってくるものだと思う。今までは調査書の学習の記録、特別活動の記録、その他の記録という形で、今たたきとして出したところは、より適切に受検生の意欲や能力を含めたところで評価できるようにする選抜なので、中学校から作成する調査書の内容は、学習の記録のみとして、特別活動としてこれまで記載していた部分を、自らの言葉で記載する自己PR書の提出という形に変えていくというたたき台であると解釈している。提出する、しないとなると調査書の形も変わってくる。その扱いをどうするかということは議論になる。まずは、たたき台は様式の変更を伴うものなので、学習の記録は調査書で、特別活動の記録は自己PR書とするというところで、一律のたたき台から始まるということで解釈をしている。今のような趣旨の確認ということで良いか。
- ◇ 自己PR書を全校で実施するかどうかということか。
- 中学校が提出する書類のところで、調査書が変わるのであれば、何らか特別活動のところを選抜資料とするにあたり、自己PR書というものではいかが、ということである。自己PR書の扱いをどうするかという議論になってくるかと思う。これについては、今後の議論の中で御意見をいただいく必要があるのではないか。方向性を考えていかないと、調査書の様式もバラバラになってしまうので、前提として書類に関しては、たたき台の案の(2)に記載されている内容でいかがか。扱いについては、今後、御意見をいただく、ということではいかがか。
- ◇ 自己PR書にかえていくということで、中学校の担任の負担は増えないのか。自己PR書を導入するとなると、書ける生徒はいいと思うが、内容を見て指導することによる教員の負担増については心配だ。
- ◇ 調査書の内容を学習の記録のみとする、とたたき台しているが、どこまで削ることを想定しているのか。例えば出欠とかはどうするのか。次回でもいいので想定しているものを示してもらえないか。自己PR書の想定も示してもらえないか。他県のものも示してもらえるとありがたい。作文ではなく、箇条書きで良いのか、参考に資料を用意いただきたい。
- 他県の調査書も含めて、資料の準備をしてもらえるか。
- ▲ 承知した。次回までに用意する。
- では、議論の参考として資料を準備してもらいたい。
- ▲ 次回、検討している調査書の形もお示しできると思う。現段階での調査書は、各教科の学習の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動等の記録、出欠の記録、その他となっている。今回のたたき台では「各教科の学習の記録」のみ

での提案である。

- 事務局から補足があったがいかがか。教科科目の学習の記録以外は削除ということでよろしいか。特別活動の記録は、自己PR書という形で想定しているということだが、いかがか。
- ◇ 自己PRの考え方は良いと思う。ただ、心配もある。
- 特別活動の話の中で、自己PR書は自らの言葉で記入することを想定している。観点として、公平性が担保できるかといった議論も関わってくるのが想定される。
- ◇ 高校は、公印が押された調査書で評価してきた。自分で書く自己PR書は公印が押されないと思うので、面接などによる確認が必要なると思う。面接の実施校が減っている中、高校の負担増は避けられない。
- ◇ 中学生の評価できるものは評価してもらいたい。ただ、部活動の地域移行もあることから、学校の中での調査書に書ききれないものもある。特色を出すということでは、ぜひ検討してもらいたいところ。実際には高校側に対応する大変さがあるのではないかと考えている。今までであれば調査書の記録が確かであるのか、中学校でも精査をしていた。自己PR書の中で添付書類等も今後、求められるのかと考えている。子供たちの負担にならないような形で書類として提出されるものと考えている。
- 今までは中学校で精査していただき、公印押印をしてもらってきた。入試の公平性と考えると、信頼性、妥当性について、何らか人物を見て、評価していく必要があるのかと思う。
- ◇ 特色化について、面接もやり実技もやるとなると、もう1日増やさなくてはならないかもしれない。学校側にも中学生にも負担が増えるのではないか。例えば、部活で特色を出したいという学校が、この種目の実技検査をすることは可能なのかと考える学校も出てくるのではないかと思う。
- 実技検査のあるところは、体育系だけではなく、芸術系も行っているところで、実技検査の観点からの検討も必要になってくる。
- ◇ 自己PR書の導入は自然な流れだと思うが、採点2日に加え、自己PR書を用いた面接、評価となると、発表日が少なくとも2日は遅くなる可能性がある。また、複雑な作業で、入試ミスが起こる恐れもある。そこで提案だが、自己PR書を導入するのであるならば、現行の入試問題（記述式）についての検討も併せて必要だと考える。具体的には、マークシート入試の実施である。マークシート入試については、懸案事項もあるが、実際に、マークシート入試を導入している県もあると聞いている。
- 他県の状況も含めて、マークシートでの実施をしているところを調べることは、事務局は可能か。

▲ 承知した。

- 中学校側も高校側も負担が増えることで、ミスが増えるということがあってはならない。その他はいかがか。
- ◇ 入試がC B Tになることもあるのか。
- 予算もからむことなので、何とも言えない。一人一台端末導入の観点からの質問であると認識しているが、公平性の担保等も課題である。

(10分休憩)

○ 再開する。御意見を頂戴したい。

- ◇ 選抜の特色化について、自分なりに調べてみた。入試の仕組みには、3パターンあるように思う。前期・後期、推薦・一般の組み合わせでは、学力検査と学習の記録のみを見ている学校が多いようだ。一本化している県で、特色化選抜と一般での選抜が多い。埼玉のような選抜の仕方は、埼玉と千葉くらい。部活で実績のない生徒にとっては、全ての選抜においてマイナスになっているような選抜になっている。特色検査を実施するものと、特色化じゃない選抜はどう扱って、どう整理をしていくのかも一緒に考えていけないのではないか。自己PR書がすべての選抜で関わってくるのか、それとも一般の選抜では学力検査と学習の記録のみなのか。埼玉の今の入試は独特な入試なのかもしれない。他県の入試のことも整理いただくといいかと思う。一本化されている他県の入試だけを調べるだけでも良いと思う。一回の入試の中で、どういう扱いをしているのかを調べておく必要があると思う。判断材料があると良いと思う。
- 入試の解答方法の在り方や調査書の様式の在り方について事務局に次回までの調査をお願いしたが、選抜の方法についても他県の状況を調べることができるか。

▲ 承知した。

- ◇ 部活動の地域移行がどう進むか分からない中、部活動の評価に関して、扱いを決めていくのは難しい。自己PR書を自らの言葉とiiつつも誰かに相談して書き、書き方が変わってくるので、公正公平という意味では難しいだろう。
- ◇ 自己PR書の評価の仕方というのはどうなるのかが気になる。自らの言葉とiiつつ、ある程度、教員の指導は入ると思う。ただ中学校側としては、すべての活動を見て評価するということはやってほしい。
- ◇ 部活動の地域移行は必ず進むものだと思っている。地域で活動する生徒がいて、このままでは調査書では評価ができなくなるだろうから、自己PR書が必ず必要になるのではないか。部活をやらなくてもいい、という流れもある。

今までの埼玉県の部活動の評価は、これまで過度であったと思っている。だんだんと評価できなくなってくる。学校が特色だと言って、部活動が一つの種目を実施するというのではないだろうと思う。自己PR書の評価としては、あまり重きをおけないのではないか。また、先生方の負担になるのではないかといった意見があったが、調査書から切り離して、本人と保護者の責任をもって書くことで、教員の負担を減らすといった方向に行くべきではないか。

- 中体連の大会にもクラブチームで参加することもあるようだ。生徒の多様な活動をいかに評価するか、という観点では必要なのではないか。
- ◇ 自己PR書には基本的に賛成。部活以外のことも書ける。中学生の上級学校訪問の中で、将来何をやりたいのかといった雑談をすると、中学生はしっかりとした返答がある。中学校で企業と連携して取り組んでいる生徒もあるが、これまでの入試では、そういった中学生の活動が見えにくかった。中学生の隠れた活動を拾い上げて評価できるのは、特色のある選抜だと思う。しかし、なくした面接をまた復活させるのは、かなり抵抗感はあるかと思う。
- ◇ 中学校側としては、中学生の意欲を評価してくれるというのは、非常にありがたい。
- 違う観点でも結構なので、他の意見はいかがか。
- ◇ 一律同じ形式で自己PR書にするのか、特色を出す学校に応じて自己PR書を用意するのか、そういったことも可能なのか。
- 様式というところか。志願先変更のしやすさについての懸念か。
- ▲ 御意見として参考にさせていただく。
- ◇ 現行の入試制度に、今回の特色化についても、特別選抜を追加するといったスモールステップとしてどうか。現行制度を全て変えるのではなく、不登校特別選抜のように、自己申告書を生徒、保護者が書き、そのときは面接を行う。同様のことができるのではないか。臨機応変な対応ができるというところで、特色化も取り込めるのではないかと思う。
- ◇ 今日の意見をもとに、たたき台が改めてまとめられると思うが、入試の日程を増やすことは現実的ではない。是非、入試期間を増やさない方向で検討して欲しい。
- ▲ 承知した。
- ◇ 日程がとても大事であると思う。自校の生徒の指導も止めて、採点業務、選抜業務をしているので、これ以上日程が延びるのは苦しい。
- 入試の期間が長期化しているのは、コロナの関係もあったと思う。具体的なイメージを持てるたたき台の提案をお願いしたい。
- ◇ 自己PR書に書くべきものの具体的なものが知りたい。経済的な格差が不利にならないような形になるとよい。部活動でいえばはっきりと書けるもの

があると思うが、経済的な理由で取り組めない生徒の評価をできるような様式になるとよい。

- 地域移行に関する国の会議においても、部活動の実績について過熱気味との懸念もあるようだ。意欲をしっかり評価できる仕組みを考えていきたい。
- ◇ 学校によっては白紙で自己PR書を提出する生徒もいると思う。
- ◇ 高校側の入試の仕組みの中で、公平性や客観性をもって、できるだけ点数化して計算していけるのが公平性の観点からもいいのかと思う。面接官の思いによって点数差が出てしまうことのないようにしてほしい。自己PR書が点数化され、機械的に評価できる仕組みがあると良い。
- 入試の公平、公正を考えなければならない。入試という中での信頼性、妥当性も担保しなければならない。他には、意見はいかがか。
- ◇ たたき台にある特色検査の想定を教えてほしい。イメージで構わないので、事務局で考えている特色検査について教えてほしい。
- ▲ 面接、実技検査、自己表現（プレゼン、楽器演奏など）、小論文、作文、応用問題（学校選択問題のようなもの）などが考えられる。
- ほかに意見はいかがか。意見がないようであれば、本日の協議を終了したい。充実した協議に感謝する。

8 諸連絡

次回日程は、令和5年7月24日（月）14時から、教育委員会室

9 閉会

署名

委員長

守屋 淑美

署名委員

加藤 哲也

署名委員

土橋 敏嘉